

2009年9月12日

L^AT_EX でプレゼン

bleis-tift

自己紹介

bleis-tift

<http://d.hatena.ne.jp/bleis-tift/>

<http://twitter.com/bleis/>

<http://ja.doukaku.org/user/732/>

発表に至った経緯

You&IさんがTwitterで「パワポがない」とつぶやいていたので、じゃあ LATEX でいいじゃん！て言ったら、 LATEX で1セッションできてしまうのでは（笑）と返されたので

L^AT_EXとは

- Knuth先生が作った組版処理ソフトである
T_EXを使いやすくしたソフトで、
Lamport先生作
- T_EXがアセンブリ言語だとすると、L^AT_EXはC
言語くらい？
- C言語とかよくわかりません><

L^AT_EXを使うと何が嬉しいの？

- PowerPointが不要！
- 発表用のソフトも色々選べる！
- PDFさえ表示できればプレゼンできる！
- 綺麗な数式が書きやすい！
- テキストなので管理も簡単！

もちろん欠点もあります . . .

L^AT_EX を使う欠点

- 配置とか弄ろうとしても難易度高い
- アニメーションが . . .
- WYSIWYG . . .
- それなりの慣れが必要

でも慣れてしまえば問題ないよ多分！

L^AT_EX の特徴

- ソースをコンパイルしてDVIやPDFを出力
- HTML ちっくな構造化文書
- レイアウトが綺麗
- フリーソフトウェア

dvi or pdf

DVIでも dviout とか使ってプレゼンできるけど、
PDFの方が色々出来る上、dviout と Adobe
Reader 比べたら . . . ねえ？
それに dvi なんか重いし . . .
と、言うことで、ここではPDFをおすすめします

インストール (Windows 編)

L^AT_EXで一番の難関がインストール・・・だったんだけど、阿部 紀行（あべのりゆき）さんによるT_EXインストーラを使えば必要なものを全部入れてくれて楽チン

インストール (Linux 編)

Windows じゃない人は、`aptitude install latex` と
かなんとか

あと、奥村晴彦先生作の `jsclasses` とか入れてお
けばいいと思うよ！

インストール (Mac編)

まずはMac下さい。話はそれからだ
誕生日は12/23ですが、誕生日プレゼントの受け
付けは誕生日の前後6ヶ月間行っております
みなさんふるってプレゼントしてください！

テンプレート (全体)

```
\documentclass[slide,papersize]{jsarticle}
\usepackage[dvipdfmx]{color}
\usepackage{pxfonts}
\def \sheet #1{
  \section*{\centering \large \bfseries #1}
}
\begin{document}
% ここに内容を記述
\end{document}
```

タイトルページ

```
\title{\Large\bfseriesここにタイトル}
```

```
\author{作った人}
```

```
\date{発表する日付}
```

```
\maketitle
```

タイトルページ

例えば . . .

```
\title{\Large\bfseries{\LaTeX}でプレゼン}  
\author{bleis-tift}  
\date{2009年9月12日}  
\maketitle
```

こんな感じ

テンプレート (ページ)

\sheet{シートのタイトル}

% ここに内容を記述

コンパイル

```
@echo off
platex "ファイル名" && ^
del "ファイル名.aux" "ファイル名.log" && ^
dvi2pdf "ファイル名" && ^
del "ファイル名.dvi" && ^
"ファイル名.pdf"
```

こんな感じのバッチファイルを用意しておくとなら

色を付ける

```
{\color{色の名前} この部分の色が変わる}
```

色々と指定は出来ますが、基本的には

black, white, red, blue, green, cyan, magenta

くらいでいいでしょう

文字のサイズ

{\サイズ この文字のサイズが変わる}

サイズに指定できるのは、`tiny`, `scriptsize`, `footnotesize`,
`small`, `normalsize`, `large`, `Large`,
`LARGE`, `huge`, `Huge` です

改行 (1)

この文末で改行します

こんな感じです

改行 (1)

こう書く

この文末で改行します \\
こんな感じです

改行（2）

この文と次の文は違う段落です
こんな感じです

改行 (2)

こう書く

この文と次の文は違う段落です

こんな感じです

改行の使い分け (1)

- 段落と見なすか改行と見なすか
- 普通は改行しとけばいいはず

改行の使い分け (2)

改行を表す \\ には、パラメータが指定可能

こんな感じに \\[2em]

次の行との間隔が簡単に指定可能

こんな感じに

次の行との間隔が簡単に指定可能

リスト（番号付き）

1. アイテム1
2. アイテム2
3. アイテム3

リスト（番号付き）

こう書く

```
\begin{enumerate}  
\item アイテム1  
\item アイテム2  
\item アイテム3  
\end{enumerate}
```

入れ子

1. 入れ子に

(a) してみる

入れ子

こう書く

```
\begin{enumerate}
\item 入れ子に
  \begin{enumerate}
\item してみる
\end{enumerate}
\end{enumerate}
```

リスト（番号なし）

- アイテム
- アイテム2
- アイテム3

リスト（番号なし）

こう書く

```
\begin{itemize}  
\item アイテム  
\item アイテム2  
\item アイテム3  
\end{itemize}
```

中央寄せ

こんな感じに
真ん中に

中央寄せ

こう書く

```
\begin{center}
```

こんな感じに \\
真ん中に

```
\end{center}
```

テーブル

a	a	a
aaaa	aaaa	aaaa

テーブル

こう書く

```
\begin{tabular}{|c|l|r|} \hline
a & a & a \\ \hline
aaaa & aaaa & aaaa \\ \hline
\end{tabular}
```

寄せる

```
\begin{center}
\begin{tabular}{|c|l|r|} \hline
a & a & a \\ \hline
aaaa & aaaa & aaaa \\ \hline
\end{tabular}
\end{center}
```

a	a	a
aaaa	aaaa	aaaa

画像



画像

こう書く

```
\begin{center}  
\includegraphics [width=5cm] {cpp.jpg}  
\end{center}
```

画像

ただし、これだけでは駄目で、
`\usepackage[dvipdfmx]{graphicx}`を
`\begin{document}`以前に記述し、`xbb`ファイル
を生成する必要があります*¹

*¹ `bb -x` 画像ファイル名

数式

$$a_0 + \frac{b_1}{a_1 + \frac{b_2}{a_2 + \frac{b_3}{a_3 + \dots}}}$$

数式

こう書く

```
\begin{equation*}
a_0 + \cfrac{b_1}{a_1 +
      \cfrac{b_2}{a_2 +
      \cfrac{b_3}{a_3 + \cdots}}}}
\end{equation*}
```

数式

ただし、これだけでは駄目で、

```
\usepackage{amsmath}  
\usepackage{pxfonts}  
\mathversion{bold}
```

が必要です

コード

```
\begin{verbatim}
```

ここにコードを記述する

```
\end{verbatim}
```

発表

- Adobe Reader
- PDF-XChange Viewer
- その他何か

とりあえず、PDFが表示できればなんでも
いい！

発表

PDF-XChange Viewerは発表中に色々いじれるので、Windowsならこれがおすすめ！
なんか、WineでもインストーラでEnglish選べばそこそこ使えるとか・・・？

この先にあるもの

- HTMLで（高橋メソッド）
- JavaScriptとかで（id:amachang）
- 動画で（わんくま勉強会 大阪）
- 手書きで（id:nowokay）
- ゲームで（1000Speakers）

まとめ

- プレゼン用ソフトを使わなくてもプレゼンは出来る！
- L^AT_EXという選択肢
- 自分の得意なモノを駆使してプレゼンしてみてはいかかでしょうか？